

重伝建選定から20年 湯浅の歴史を活かしたまちづくり

湯浅町教育委員会 歴史文化財係長 山本 隆重



歴史文化財係長 山本隆重さん

湯浅町の山田川河口近く、JR湯浅駅から北西に歩いて10分程度のところに、湯浅町湯浅伝統的建造物群保存地区（以下、「伝建地区」という。）はある。面積にして約6・3ヘクタール、旧市街地のおおむね3分の1程度の範囲が、伝統的な町並みの文化財として保存されている。醤油醸造を中心に行なった行政や住民等からなるまちづくりは、平成9年に組織され、町並みを保存しようという動きは、平成9年に組織された行政や住民等からなるまち

並みには、伝統的な建造物や、「通り」と「小路」で構成される特徴的な地割が残されている。

選定以降、町並みを構成する伝統的建造物を保存し、歴史的な町並み景観を向上させるため、伝建地区では毎年、現代的な工法で補修された部分を伝統的な姿に復原し、伝統的建造物を維持するための屋根の葺き替え等を行う際や、新しい建物を、伝統的因素を備えた外観にする等といった修景を行う際に、補助金を交付する仕組みをもつて、町並みの伝統的な景観の向上に努め、同時に、伝建地区内における外観が変わることについて許可制とするにより、景観を阻害するものを

づくり委員会の提言に始まる。私たちにとって至極当たり前の景色であったこの町並みを貴重な財産として見直そうというものである。平成11年度から12年度にかけて、その価値を明らかにする保存対策調査が行われ、その後、平成18年12月に国の重要伝統的建造物群保存地区（以下、「重伝建」という。）に選定されたことに繋がった。和歌山県では唯一のことである。



湯浅町湯浅伝建地区

和歌山県下で唯一の重伝建に選定されている湯浅町伝建地区。歴史文化財係長の山本隆重さんに、選定から20年、この間の変化と課題について投稿していただきました。

1. 湯浅の町並み保存

防止するのが、伝建制度である。保存修理事業は、毎年3～5件程度のペースで行われており、この20年弱の間に町並みの景観が大きく整った。伝建地区は文化財といえども、人々の生活が営まれている地域であり、そこに住む人々の協力がなくては継続しえない仕組みであるといえる。住民相互の繋がりの強化や、町並み保存への意識醸成、地域課題への取組み等のため、住民組織として湯浅伝建地区保存協議会（以下、「保存協議会」という。）がある。これまで、彼らやその他の住民有志による団体により、住民自らが町並みを舞台にしたイベント（行灯やひな飾り、音

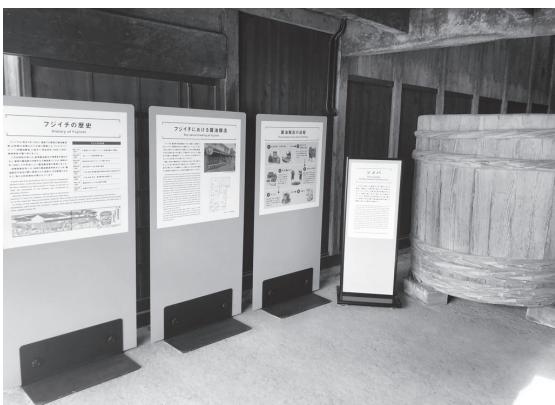
目次

| |
|--|
| 重伝建選定から20年 湯浅の歴史を活かしたまちづくり 湯浅町教育委員会 歴史文化財係長 山本 隆重 1 |
| 地域と学校をどう持続させて行くのか 学校が再開された高野町富貴 2 |
| 住民の移動手段確保の決め手になるか 有田川町公共ライドシェア始まる FUKI CINEMA PARADISO代表 大谷 剛志さん 4 |
| お知らせ 2025年度、和歌山県地域・自治体問題研究所総会 8 |

わかやま住民と自治

発行／和歌山県地域・自治体問題研究所
和歌山市太田2丁目14-9 太田ビル203号
TEL・FAX 073-488-3127
jichiken@crux.ocn.ne.jp 2025年6月号

2025年5月25日発行 第369号 (月400円)



旧柄原家住宅における展示の様子

樂イベントなど)が行われるなど、自主的に地域を盛り上げようという動きがみられている。

2. 人が訪れるまちへ

湯浅において醤油醸造が発祥し、湯浅の人々がそれを受け継いでまちを繁栄させてきた一連のストーリー『最初の一滴』醤油醸造の発祥の地 紀州湯浅[†]が日本遺産の認定を受けた。日本遺産とは、全国各地の歴史的なストーリーを、伝わった文化遺産を通じて体感できるものを認定し、国内外からの誘客に繋がる取組みを支援する文化庁

りにいかそうというものである。平成28年度から令和7年までの計画であり、現在、第2期計画に移行すべく、これまでの保存を中心とした取組みから、文化遺産や歴史的風致を活用して様々な取組みを進めていこうという方針のもと、作業を進めている。

区や醤油醸造の歴史を核として、湯浅町全体で歴史を活かしたまちづくりを推進すべく、平成28年3月に「湯浅町歴史的風致維持向上計画」（通称「歴まち計画。以下、「歴まち計画」という。）を作成した。歴まち計画は、伝統的な建造物を核とした市街地景観の中で、伝統的な人々の活動が息づいているものを歴史的風致と位置付けて、それを維持向上することにより、まちづくり

本遺産の核となるのも、伝建地区や醤油醸造の歴史である。これらの魅力を発信するためには、醤油醸造の過程を知ることができるVR動画の作成や、パンフレット、看板などの整備を行った。外国人観光客は、前述の甚風呂における外国人来館者数をみると、平成28年度には486人であつたものが、令和6年度は1034人と大きく伸びている。

3. 伝建地区をめぐる 諸課題

このように、伝建地区を中心とした湯浅町の歴史まちづくりは、重伝建選定後、様々な形で進捗を見せてきた「湯浅＝醤油のまち」というイメージが定着しつつあり、メディアで取り上げられるこ

活動力の減衰も大きな課題である。伝建地区内の自治会である北浜町区の住民によつて、来訪者へのお茶出しや案内等がされていた「湯浅まちなみ交流館」では、コロナ禍の最中に健康への懸念から活動が中断され、その間にもメンバーの減少が著しく従来通りの活動ができない、となつた例がある。地域住民で組織される保存協議会の委員数を見ても、その傾向は明らかで

ある他、令和2年1月には醤油醸造家が昭和の終わり頃まで醤油作りを営んでいた「旧栖原家住宅」の改修整備が終わり、案内板等による解説や、VR動画の体験ができる施設として、来訪者に無料で入館してもらえる施設として開館した。そのほか、令和2年には伝建地区のすぐ近くに大型バスが駐車可能な駐車場が整備され、令和5年には伝建地区内の一角に駐車場・トイレを備えた「湯浅まちなみの駅」が出来る等、来

来訪者の受入機能も強化されている。伝建地区内には甚風呂をはじめ、休憩所「岡正」や、「湯浅まちなみ交流館」といった来訪者の休憩・おもてなしを行う施設が複数

訪者の利便性は大きく向上している状況にある。

3. 伝建地区をめぐる諸課題

このように、伝建地区を中心とした湯浅町の歴史まちづくりは、重伝建選定後、様々な形で進捗を見せてきた。「湯浅＝醤油のまち」というイメージが定着しつつあり、メディアで取り上げられるこ

活動力の減衰も大きな課題である。伝建地区内の自治会で、来訪者へのお茶出しや案内等がされていた「湯浅まちなみ交流館」では、コロナ禍の最中に健康への懸念から活動が中断され、その間にもメンバーの減少が著しく、従来通りの活動ができない、となつた例がある。地域住民で組織される保存協議会の委員数を見ても、その傾向は明らかで



伝建地区を歩く観光客

てしまう。既に空き家になつてしたり、このような流れを辿ることが目に見えている家空き化は、人口が少なくなっているという問題だけではなく、防災・防犯面の懸念のほか、家屋の老朽化の急速な進行に伴う伝統的建造物の維持が困難になることや、町並み景観を損なうことに直結する。最もいいのは、若年世代が湯浅に戻りたいと思えるような町ぐるみの取組みを進めることだが、完全な問題の解決には至らないことは想像に難くない。移住者を呼び込んで住んでもらう、あるいは空き家を活用した店舗など住宅以外の利用方法で建物を使つ

でもらう、といった取組みが必要となつてくる。

4. これから歴史まちづくり

地区や醤油醸造の歴史の魅力を多くの人に知つてもらいたいのだ、となるのかどうか。あらかじめ、そこに住む人々の思いを考えておくことも必要なかもしない。

進捗、拠点施設の整備、同時に進行してきた人口減少や空き家化の問題。これまでの経過や、顕在化してきた課題を踏まえて、私たちは町並み保存の、そしてそれらを活かした歴史まちづくりを進めていかなければならぬ。

継続して、建物を所有する住民と連携を図りながら、保存修理事業を進めていく必要がある。伝統的な工法による修理事業を行つた建造物は、やはり現代工法のものよりも劣化が進みやすい傾向にある。一度修理を行つたものも、2巡目、3巡目の修理事業が今後行われていくことになる。

良好な町並み景観を維持するためにも、修理に携わる技術者の確保や養成が必要で、そのための技術者集団との連携も取り組み始めている。

また、空き家活用を促すた

空き家を持つ所有者と、湯浅で何かをしたい移住者・出店者との間を繋ぐ役目は非常に重要で、期待するところが大きいにある。あわせて、さらにどのような支援が必要かを検討していく時期に来ているのではないか。

そして、伝建地区を中心として、湯浅町全域を巻き込んで歴史まちづくりの推進により、さらに魅力的なまちづくりを推進し、来訪者の滞在時間の増加、湯浅町における経済活動の活発化を図っていく取り組みが求められる。湯浅駅

めに、移住者の受け入れや、伝建地区内における新規出店の促進に関する取組みを発展させていかなければならない。現在、湯浅町では移住・定住にかかる支援や、新規出店への支援制度が創設されているが、古民家を活用しての取組みに際しては、伝建制度における保存修理事業の対象が外観と構造にかかる部分のみであることから、内装の改修や浄化槽の設置などに多額の費用がかかり、なかなか実現しない傾向にある。今、地域おこし協力隊が入って、町内の空き家・古民家の活用にかかる相談窓口として活動を行ってくれているが、このようなくさき家を持つ所有者と、湯浅

一九三

重伝建選定から20周年を迎えるにあたり、改めて振り返ることで、多くの取組みの進捗が見られる反面、新しい課題も出てきている現状が明確となつた。町並み保存は、ある一定の時期をもつて完了するわけではなく、文化財として未来永劫守り続けていく責任が私たち世代にはある。行政、住民、技術者、学識者、それに湯浅ファンとともに、継続して考え続け、取り組み続けなければならない。

周辺には、改修整備後に国の登録有形文化財となつた湯浅駅旧駅舎や複合施設湯浅えりアには、熊野古道のルートでもある道町通りがあり、これを軸にして新たに立ち寄れるスポットを整備し、相互を歩いて巡れるルート作りを進めることができが検討されている。湯浅町には、この熊野古道をはじめ、湯浅党関連の遺跡や、郷土の偉人の旧宅など、豊富な文化遺産や歴史が存在する。これらを総合的に磨き上げることにより、町の魅力度向上ひいては町民の郷土への愛着が深まることが期待されるのである。

重伝建選定から20周年を迎えるにあたり、改めて振り返ることで、多くの取組みの進捗が見られる反面、新しい課題も出てきている現状が明確となつた。町並み保存は、ある一定の時期をもつて完了するわけではなく、文化財として未来永劫守り続けていく責任が私たち世代にはある。行政、住民、技術者、学識者、それには湯浅ファンとともに、継続して考え続け、取り組み続けなければならない。

地域と学校をどう持続させて行くのか 学校が再開された高野町富貴

FUKI CINEMA PARADISO代表 大谷 剛志さん



大谷剛志さん

富貴への移住

阪辻：大谷さんはどこから富貴に移住されたのでしょうか。

大谷：出身は九度山町です。

田舎でいつか都会に出たいという思いがあつて、結婚して息子が生まれたら都会での子育ては難しいとなつて、九度山に戻ろうかとも思つたのですが、大阪市内への通勤は少し不便で、そこで橋本林間田園都市に移つて5年ほどいました。

昨年4月、子育て世代の移住により再開された高野町富貴（ふき）小学校。開校式で、教育長のあいさつは「今回の開校は、児童数の減少で統廃合が進む世の中の流れに対し、学校のあり方を問うメッセージ。教育の魅力で新たな移住者を呼び込みたい」と報じられました。橋本と五条に隣接し、標高600m、人口約300名の富貴地区でのこの間の取り組みと課題について事務局の阪辻、大前でお話を聞きに行きました。

した。

そこにいる時に、高野町地域おこし協力隊の方が行つていた「川で遊びましょう」というイベントに参加して、初めて富貴を訪れました。移住された方も何人かいりとて、こんな所で住んでいる人は凄いなと思ったぐらいです。

当時移住には興味はなく、たまたまその時に、今はお休みしていますが、「ちいさな夫婦がいて、元保母さんの奥さんが子どもを見てくれつづ、旦那さんが料理を出してくれつづ、そういう、そういうカフェがちょうどオープンする時でした。「良かつたら来てください」とお声掛けをいただいて、それで何度も通いました。そこは、小学校の向かいでバ

小学校の開校、分校から本校に、中学校の開校を願つて

で、仕事をリタイアされたご夫婦がいて、元保母さんの奥さんが子どもを見ててくれつづ、入学した時に分校として開校して、息子が入った時は2年生でした。分校が開校したところは、僕らは町民ではなかつたので、学校との関りはなくて、ちょっととした地域の会議には参加していました。それ

で、家も古民家を改装したい感じの店で、それが僕らの中では印象深く。「ちいさなたね」に遊びに来るような流れが、そこで、そうこうしているうちに、自分たちの拠点が欲しいとなつて、「ちいさなたね」の方や地域の方に紹介してもらつて今のこの家を借りて、週末移住をすることになったのです。それが、7、8年前です。橋本の自宅から車で45分、意外とかかるのであります。それで、息子が小学校の入学のタイミングでこつちに完全移住してきました。その子が今、小学校5年生になります。

阪辻：今、中学校開校という話をしていて、本校にという話をしていました。今年6年生の子がいます。

大谷：小学校は、分校として開いていたので、本校にという希望もあったのですが、それよりも中学校を再開してほしいという希望が強かつたのです。

大谷：ここから、高野山中学校まではどれくらい距離があるのですか。

大前：ここから、一度山を下がつてそこから上がつて行くから、車で50分くらいという感じです。しかも、橋本から富貴へ来る道よりも整備されていない道路状況です。

分校時代、月に2回くらい本校に行くことがあって、そ

るという話になつて、僕らが2人目に続きました。そこから、僕らの友達が遊びに来たりしているうちに、ここはいいなという感じで、移住する家族が3組くらい来てくれました。だから僕らが移住した後、3、4年で移住者が増えた。それで僕らとしては中学校が将来的にどうなるのかというのが気になつて、そこから教育委員会や高野町と話し始めました。今年6年生の子がいます。

大谷：今、中学校開校という話をしていて、本校にとい

う希望もあったのですが、そ

れよりも中学校を再開してほ

しいという希望が強かつたのです。



富貴小学校

の時は、タクシーに乗って50分かけて行つて、交流や健診とかをして戻つてきました。
阪辻：高野町では小中一貫校で小学校、中学校とこども園や公民館も一体の「高野山学びの杜」になつてているのですよね。富貴小学校には何家族、何人の子どもさんがいるのでありますか。

大谷：今は4家族で小学生は9人です。小6が3人いるので、中学校を開けてほしいという活動を保護者が中心になつて、教育委員会や教育長と話し合いをしたり、地域の人

の方々も望んでいたのですが、保育園も一体の「高野山学びの杜」になつていているのです。

の時代やつていくのは、保護者の方ですね。以前からの住民の家族に子どもはないですか。

大谷：いないのです。その世代の方がいないのです。僕らみたいな世代の人らはみんな富貴から出たのです。

大前：移住されて、どういうお仕事をしているのですか。

大谷：僕は、奈良県五條市まで仕事に行っています。その前は、かつらぎ町での仕事でした。ここで仕事はないので、元々大阪で働いていて、それで移住を見据えてこっちで仕事を探して、近隣でもまあいけるみたいな感じです。

大前：移住された方も、ここに住んで、仕事は地域外でされているパターンが多いですね。

大谷：保護者は、全部移住者の家族に子どもはないですか。

と話したり、陳情書を地域の方にもお願いして出したりしています。

大谷：いかない、子どもたちが自分たちで考えて、自立と共生というのでやつていくのは、保護者も望んでいたのです。僕らも最初は、どれくらい進んでもうるのですが、僕らもかと、結構追求をしていたのです。1年余りでだんだんわかつて、教育長もイエナプランをやるとは言つてない

みたい、子供たちが自分たちで考えて、自立と共生といふその話を落ち着いてきていました。でも現場の方とかは、なかなかリスクを冒しても、新しいことにチャレンジしてほしいと伝えています。でも現場の方とかは、なかなか難しいと感じるのかと注目していたのが、

イエナプラン教育
自立と共生を重視するオープンモデル教育。ドイツで創られ、異年齢グループで子どもたちがお互い学び、尊重し合うことを重視しています。

富貴独自の教育、イエナプランを取り入れた教育は

阪辻：富貴小学校のイエナプランを取り入れた学校というのはどうなつたのですか。

大谷：もちろんイエナプラン

みたい、子供たちが自分たちで考えて、自立と共生といふその話を落ち着いてきました。でも現場の方とかは、なかなか難しいと感じるのかと注目していたのが、

阪辻：イエナプランを取り入れた教育というのが、実際教える現場の教職員が、それが何なのかも理解して、日々の学校教育の中で生かされるのと、地域の中でもそういう考え方に基づいていろんな実践、取り組みがされる。この2つが両輪としてしっかりと、何々プランと言つても絵にかいれた餅で、こうすればこういうメリットがあると、教育委員会も具体的な話がないと、プランが一人歩きしてしまうようになるのです。

大谷：もちろん、イエナプランを取り入れた教育は

阪辻：イエナプランを取り入れた教育というのが、実際教える現場の教職員が、それが何なのかも理解して、日々の学校教育の中で生かされるのと、地域の中でもそういう考え方に基づいていろんな実践、取り組みがされる。この2つが両輪としてしっかりと、何々プランと言つても絵にかいれた餅で、こうすればこういうメリットがあると、教育委員会も具体的な話がないと、プランが一人歩きしてしまうようになるのです。

大谷：僕らも、少人数で複式校ではより大事だと思います。

大谷：僕らも、少人数で複式でというのだけでも、例えば橋本小学校と比べて全然違う環境だし、さらに言えば、もつとこの環境を生かしてもらいたい。イエナプランとかは、

より子どもの自主性が磨かれるように思うのです。僕らも、もちろん学力も重要ですが、多少学力を期待できなかつたとしても、新しいことに生が新しく来た中でのスターなど、そんな急に変わらないというのが僕らの印象です。

阪辻：校長も含めて教師の集団で、どんな教育をすすめるのかの教育プラン作りはすごく大事だから、一朝一夕に出来ないけれども、保護者と共に作つていくような教育プランが出来れば。どこかで借りてきた教育プランではなく、作り上げていくような教育プランが、地域と近しい小規模校ではより大事だと思います。

大谷：僕らもそれは課題として持続をどうしていくのか、個人の努力だけでは限界があると思うのですが。

大谷：僕らもそれは課題として抱えていて、今は4家族である程度子どもがいる状況ですが、子どもは年々成長して、

地域と学校の持続をどうして行くか

阪辻：地域の持続というのも必要やけども、学校としての持続をどうしていくのか、個人の努力だけでは限界があると思うのですが。

大谷：僕らもそれは課題として抱えていて、今は4家族である程度子どもがいる状況ですが、子どもは年々成長して、

富貴の自然と遊ぼう

パッと山を抜けた里山みたいなところで魅力的です。もう一つは人ですが僕も田舎出身なので、田舎の雰囲気というかよそ者が来たらちよつと距離を置く、それを感じつつ育ちました。

阪辻：今、課題なども話をしてくれて、中学校開設の見通しとかはどうなのですか。

大谷：教育長からは、基本開ける方向でと言つてもらっています。ただその可能性を少しでも高めたいというので新しい移住者とか、移住に興味がある人との繋がりとかを僕らも作り出して協力していきたい。さらに仲間を増やしていきたいと思っています。

次のステップを考えるときに、住居が重要だと考えていいます。移住に興味がある人は以前にも結構いたのですが、拠点がなかつたり、住居が決まらなかつたりで、終わってしまう。そこで今、有志で家

またいなくなるのは目に見えています。僕も学校運営協議会のメンバーで、冬の運営委員会で課題としてあげました富貴の地域や学校の魅力を知つてもらわないといけないそれで、このチラシですが、5月31日に「富貴の自然と遊ぼう」というイベントをやります。本当は学校、行政、保護者、地域一体的な形でやったかったのですが、今回は調整する時間が取れず、僕ら保護者が中心となって、主催者団体はフキシネマパラダイスで行います。これは来年、再

来年も持続して、学校とか富貴とか、この土地を知つてもらえる1つの行事としていたいと思っています。僕らも富貴を知つたのは「川で遊びましよう」というイベントだったのです。これがそうなればと考えています。

大前：フキシネマ・パラダイスはどんな団体ですか。

大谷：明治時代の富貴小学校の建物を移築して、個人の方が倉庫にしているのですが、富貴で映画館を作りたいと、その半分を地域の人がリフームして箱を作り、その運

富貴の魅力は

大前：富貴の魅力ってどうな
いですか。

大谷：僕は大きく2つあると
思うのです。ベタかもしま
せんが、こここの自然と地域の
人。この2つで、自然も山の
中なのでしょうけど、空が開けて
いて、山間の村の景観でなく
営は若い人にと、2022年
頃お願いされて、ぼくらが受
けたのです。映画上映したり
音楽イベントをしたりしてい
ます。

新たに移住者のための
「お試し住宅」を自分達で

を1軒改装して移住の「お試し住宅」を作ろうと、去年の冬ぐらいから少しづつ片付けをし始めて、そういう場所を作ろうとしています。

もちろん補助金を使おうと思つたのですが、いろんなハードルで時間がかかりそうでそれなら自らの手で、自らのお金でやろうとしています。

阪辻：そういうことで、新たな移住者を呼び入れる。

大谷：だからハードとソフト両輪で、もちろんソフトもやりつつ、ここに興味を持つて

からまた新たな拠点つていう
こういう田舎だと、特に地域
の人との関わりとかも含めて
大事だと思います。

住民の移動手段確保の決め手になるか

有田川町公共ライドシェア始まる

有田川町企画調整課 山崎一宏さん



企画調整課 山崎一宏さん

有田川町の公共交通

有田川町は町の中心を有田川が東西に流れ、川に沿つて幹線道路が通ります。そこから枝分かれした支線沿いに集落があります。路線バスは、町の西端にあるJR藤並駅か

ら、川沿いに金屋、清水、から、川沿いに金屋、清水、かまではバスで約2時間弱です。その幹線ルートから集落へは町のコミュニティバスがあり、週1回300円で利用できます。また、予約でタクシーを借り上げる「みんなの定額タクシー制度」も行っています。

昨年4月、「日本版ライドシェア」が解禁されたとニュースになりましたが、ライドシェアは、一般ドライバーが自家用車で、他の利用者を運送する相乗りサービスとなります。「日本版ライドシェア」には2タイプあり、一つは、都市部等で主にタクシー会社が運営を行い、通常のタクシーやNPOが運営を行っており、自治体やNPOが運営を行っている過疎地などで活用されます。県内では一部社会福祉協議会などが会員限定で行っています。

今年4月から有田川町で、自治体が行う自家用有償旅客運送事業（公共ライドシェア）が始まりました。事業を始めた経過や事業の狙いなどを担当者にお聞きしました。

公共ライドシェアを始めるきっかけ

今回、路線バスを運行している事業所から清水・花園間のバス路線を休止したいと相談がありました。地域の要望

利用条件・料金など

実施条件は表のとおりですが、実施地域は、路線バスの減便地域、清水から花園間の地域です。地域内では自宅や目的地までドアツードアで行ってくれますが、地域外へは他の交通手段を使う必要があります。利用者は事前予約（前日13時まで・受付は平日9時から15時）すれば観光客でも利用できます。利用時間は7:30～18:30 1回の利用時間は1時間以内で、それ以上かかる場合は別に予約が必要。利用料金はバス料金を参考にしていますが、ほとんど2キロ未満になります。予約の受付や、運転手の管理や

ドライバーや車両は

登録ドライバーと車両を募集して、10名が登録してくれました。ドライバーは国の認定機関の講習を受ける必要があり、橋本市の紀北自動車学校での受講と清水で講師を招いて講習会を行いました。車は運輸局への登録が必要です。今回ドライバーは70歳未満で50歳から60歳台が中心で女性も3名います。車は軽トラか



有田川町ライドシェアの車

| 公共ライドシェア「有田川町コミュニティタクシー」が運行します

令和7年4月1日より、路線バスの減便の影響を受ける地域において、自家用有償旅客運送事業（公共ライドシェア）を実施いたします。

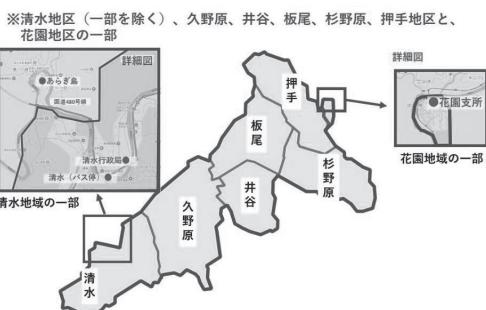
清水～花園地域での 公共ライドシェアの利用について

事前に予約をすることで、地域住民の登録ドライバーによる送迎が利用できます。

利用条件・料金など

| 項目 | 内容 | | |
|----------|--|-------------------|------------------|
| 運行地域 | 清水地区の一部、久野原、井谷、板尾、杉野原、押手地区 花園地区の一部（運行区域内であればどこへでも行けます。） | | |
| 利用者の条件 | どなたでもご利用いただけます。 ただし、介助の必要がなく単独で乗降が可能な方に限ります。 | | |
| 利用可能時間 | 7：30～18：30 | | |
| 一回の利用時間 | 1時間以内 | | |
| 事前の予約方法 | 前日の13時までに電話予約（予約受付は平日9時から15時まで） (専用ダイヤル 080-4098-1741) | | |
| 距離 料金 | 10km未満 600円 | 10～20km未満 800円 | 20km以上 1,000円 |

公共ライドシェア実施区域



予約方法、詳しい内容をお知りになりたい方は、まず

有田川町役場企画調整課 ライドシェア担当
(0737-22-3293) まで お電話ください!!

有田川町ホームページより

状態が良くない
ので、なかなか
繋がらず苦戦し
ます。

報酬はいただ
きますが、生活
の糧になるもの
でなく、まさに
ボランティアで
す。車に貼るス
テッカーも少し
けれど、実施地
域外からも「そ
ういうのいい
ね」と言われま
す。対象地域が
広がればと思
います。先日も新
聞の取材を受け
ましたが、顔写
真はNGにしま
した。

らワンボックスカーまであります。ドライバーは乗車前後にアルコールチェックが必要で、スマートフォンにつなぐアルコールチェック機でチェックが必要です。ドライバーの報酬は、利用者からの料金と手当として1回200円、それに実費相当のガソリン代を支給しています。

運営管理者にデータを送りま
す。運営管理者は、利
用者から料金と手当として
1回200円、それに実費相
当のガソリン代を支給してい
ます。

制度が始まって1カ月で、実数
利用者は延べ21回で、実数
は5名です。利用者からは
「今までバス停まで歩いたが、
家まで迎えに来てくれる」。

「別々に住んでいる子どもに
送迎してもらっていたが、わざわざ呼ばなくて済む」など
との声をいただいています。

ドライバーさんは
役場で話を聞いた後、知り
合いのドライバーさんに電話
で話を聞きました。

「最初役場から夫に声がか
かって、私が車の登録を
しました。孫の世話をあるの
で、週1日の約束で出かけて
いました。最初はどうなるかと
思いましたが、今までに5回
送迎しました。利用者との会
話が弾み楽しいです。ただ、
アルコールチェックは電波の

かつたのですが、忙しいから
と断り、私に回ってきました。
講習を受けて、車の登録を
しました。孫の世話をあるの
で、週1日の約束で出かけて
いました。最初はどうなるかと
思いましたが、今までに5回
送迎しました。利用者との会
話が弾み楽しいです。ただ、
アルコールチェックは電波の

お知らせ

2025年度 和歌山県地域・自治体問題研究所総会

日 時 6月14日(土) 13:15～15:30 (予定)
場 所 和歌山市勤労者福祉センター（和歌山市西汀丁34）4F 大会議室
議 題 活動・決算・監査報告、運動方針（案）・予算（案）役員選出他
記念講演 「命の水を支える水道事業について」（仮称）
江原 太郎（自治労連全国公営企業協議会議長）

